

施策	12	未来を見据えた地域産業の魅力・強み・人材の強化	政策	1	多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり		
施策主管課	産業振興課	課長名	和泉忠志	内線	3510	政策担当部長名	産業経済部長 遠山昌和
施策関係課名	産業振興課、工業課、農業課、林務課、観光課、商業・市街地活性化課、管理課						
重点施策	○	関連計画	地域経済活性化プログラム、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、飯田市農業振興地域整備計画、飯田市酪農・肉用牛生産近代化計画、名勝天龍峡保存管理計画、名勝天龍峡整備計画、飯田市工業用地選定方針、飯田市森林整備計画、飯伊地域林業将来ビジョン				

1 施策の目的

目的	対象	事業者、従業員
	意図	出荷額・付加価値額を高める取り組みを強化する

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
①	工業統計による事業所数 飯田下伊那	所	526	558	519	503	486	H29.12月速報	H29.12月速報		
②	農家戸数(5年に1回公表)	戸	5,021	-	-	-	-	4,502	-		
③	森林組合の作業員数	人	201	200	202	201	194	192	220		
④	経済センサス基礎調査及び活動調査による卸売業・小売業の事業所数 飯田下伊那(5年に1回公表)	所	-	-	1,839	-	1,756	-	-		
成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値28年度	目標値28年度	指標の傾向
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理											
①	既存事業者の出荷額(工業) 飯田下伊那	億円	3,583	3,308	3,560	3,659	3,902	H29.12月速報	H29.12月速報	4,386	○
②	農協組織等の販売額(農業) 飯田下伊那	億円	197.5	187.5	194.6	178.1	186.9	191.9	192.9	200.0	△
③	素材生産額(林業) 飯田下伊那	億円	2.8	3.2	3.4	3	3.2	3.5	平成29年度内確定	4.0	○
④	既存事業者の消費額(観光) 飯田下伊那	億円	102	103	98	102	96	99	H29.11月確報	129	○
⑤	飯田商工会議所各支部の事業数	件	92	85	85	102	111	123	106	90	△
⑥											
⑦											

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値28年度	目標28年度	指標の傾向	
行政	市(国・県)	事業者の活動を支援する	①支援事業数(本施策の事務事業数)	①	45	42	37	37	37	55	○
			②講座数(産大、工業課資料)	②	46	31	36	31	27	40	○
			③講座への参加者数(産大延受講者数、工業課資料)	③	1,147	922	1535	1,021	913	1,200	○
			④観光客に対する情報提供数(市内5ヶ所案内所)	④	70,763	62,333	80,257	101,644	88,445	78,600	◎
主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項(後期5箇年)							
市民等	事業者(企業・農林業者等)	技術力・マーケティング力を高める魅力、強み、人材を強化する	・製造品出荷額等 ・講座、研究会等への参加数	・飯伊地域林業活性化協議会において、視察研修や木の集いを実施し、地域材利用の普及活動を行った。 ・JAみなみ信州は、『地理的表示保護制度』に「市田柿」を登録申請し、平成28年7月12日登録された。							
	経済団体(観光公社、飯田観光協会、商工会議所、農協、森林組合等)	事業者の活動を支援する	・事業者に対する情報提供数 ・講座の開催回数 ・参加者数								

役割の発揮状況

後期（5箇年）	行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農畜産物のマーケティングやブランド力向上に向けた取組を進めた。生産団体と連携協力し、農畜産物の高付加価値化を支援した。</li> <li>・南信州牛ブランド推進協議会等の取組みによって、当地の牛肉について京都市場での高い評価を確認し、地元への還元周知が進んだ。また、焼き肉の街としての情報発信が進んだ。</li> <li>・飯伊森林組合における課題の共有化を図るとともに、必要に応じて関係事業等に対する支援を行った。</li> <li>・国における法律の施行に伴い、飯田市公共建築物や公共土木工事等における木材利用促進方針を決定し、方針に基づき地元産材等の利用拡大を図ってきた。</li> <li>・飯田商工会議所等経済団体が各事業者に対して実施する商業振興事業に支援した。</li> <li>・広域連携観光を推進する中で、伊那路観光連盟、木曽路観光連盟、南信州広域連合、南信州観光連携プロジェクト会議等との協働・連携により観光キャンペーン活動や観光パンフレットの作成等がスムーズに実施できた。</li> </ul>
	多様な主体の協働を推進していくための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在的な供給量は増加しているにもかかわらず、飯田市産材の供給体制やエンドユーザーのニーズ(品質・性能・量的安定・価格など)に応えきれないため、南信州木づかいネットワークの協力を得て、現場における課題抽出を行い、課題解決に向けた小さな成功事例を積み上げていく必要がある</li> <li>・商業分野での消費喚起の各種取り組みの効果分析と有効な見直しが必要である。</li> </ul>

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

この施策に対して有識者等(議会、市民、関係者・団体等を含む。)からどんな意見や要望が寄せられているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ブランド化の推進を重要な産業政策の1つとして位置付け、複数の施策の中で総合的に展開されたい。</li> <li>・意欲ある農業者の支援制度が十分に活用されていない。認知を深める取組を行い、農業者と懇談し支援メニューの開発など市も関わりを持つこと。</li> <li>・現在ある森林の賦存量から、森林を活用し木質バイオマスエネルギー利用することで、新たな雇用創出と地域経済を活性化することが可能林業への新規就労者や転職など、森林労働者が確保できる環境づくりが求められる。</li> <li>・技術者や大工等の技能労働者の育成と活躍できる場づくりが必要。</li> <li>・産業支援機関として事業効果の徹底検証を行うとともに、専門コーディネーター、アドバイザーの確保に努めること。</li> </ul>
施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化、人口減少による人材不足や後継者不足の更なる進展。</li> <li>・航空宇宙産業をはじめ各産業クラスターの取組が進み、産業振興に向けた知の拠点整備により産業基盤が整う。</li> <li>・食の安全への消費者意識が高まり、産地や生産者の表示等、域産域消や地域固有の信頼できる農産物の需要が高くなっていく。</li> <li>・地元から仕入れしない市外流通による大型小売スーパーやネット等の無店舗販売の隆盛。</li> </ul>

4 評価結果(後期5箇年)

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)	(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)
<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり <input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった <input type="checkbox"/> 達成できなかった	<input type="checkbox"/> 進んだ <input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ <input type="checkbox"/> あまり進まなかった <input type="checkbox"/> 進まなかった

## 5 後期5箇年の取組評価(主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因)

### 【評価結果の理由】

○各産業で課題を把握する中で業界と協働で事務事業はおおむね計画どおり進んできた。また、リニア時代を見据えた産業づくりを進める中で、飯田への人の流れを作り出すための取り組みを進めた。リーマンショック、東日本大震災等の影響により大幅に落ち込んだ出荷額等の当地域の経済状況を示す各成果指標も回復傾向にあるため、施策全体はある程度進んだと評価した。

### 【事務事業群テーマ別の評価】

#### <工業人材育成・技術向上、受注の支援、工業施策の推進>

○関係機関と連携して若手技術者や技能者の育成を支援した。

○人材育成では、企業のニーズを把握するとともに大学や支援機関と連携しながら飯田産業技術大学やものづくり高度人材育成事業を実施し、働きながら学べる環境整備に取り組み、平成18年の開講以来述べ14,000人以上が受講したほか、修士取得者も21人を数え、企業の技術力向上や地域における中核的な人材育成について支援した。

○受注活動の支援では、販路開拓に向けた国内外の展示会等への出展の支援のほか、ビジネスネットワーク支援センターでは企業OBのオーガナイザー2名による会員企業(113社)の受注活動をサポートするとともに、新たな製品や技術の開発を支援した。

○工業施策の推進では、地場産業等振興事業において企業の経営革新・技術革新を図るための人材育成や技術指導、新事業創出の支援を行った。また、当地域の公的試験場の役割を担う工業技術センターや飯田EMCセンターの適正な管理運営に努め、各種検査や技術指導の支援のための検査機器等の適正配置を図った。

#### <農業関係団体の支援、農家・農業者の支援、ブランド化の推進>

○農業分野では、意欲的な生産者等への農産物マーケティング機能の強化の支援を行った。市田柿については、生産基盤強化の支援と併せ、農林水産省の地理的表示保護制度の登録、海外展開に向けた市場調査やマーケティング力の強化、ブランド推進協議会における品質向上への取組、若年層を含む消費者層の拡大など需要創出を目指したプロモーション活動を推進し、ブランド力向上に努めた。

○畜産振興に関して、優良素牛導入の支援や衛生環境向上支援など生産基盤の強化と品質の向上に努めるとともに、南信州牛のブランド化をはじめ特徴的な食肉文化、日本一の焼肉の街を地域資源としブランド化への取組を進めた。

○農業振興センターの助成支援事業を活用することで、各地区農業振興会議を中心として地域内の農を中心とした地域づくりを考える機会や、農業グループの地域営農や新農業チャレンジなどの支援を行うことができた。また、農業振興センターの専任職員数増員等の体制強化を行い、関連機関との連携をしながら新規就農者等の次世代を担う若手の育成に努めた。

○意欲ある若手農業者や地域の中心と位置づけられた経営体に対して、経営改善のための資金、利子助成の支援を行った。あぐりチャレンジ農業資金は、対象農家の要件拡大により借入実績が大幅に伸びて農家の経営改善に活用された。

#### <林業関係団体の支援、森林の整備管理、地域産材利用の促進>

○飯田市公共建築物・公共土木工事等における木材利用促進方針に基づき、公共建築物等における飯田市産材利用を進め、地産地消による地域経済の活性化に寄与した

○飯田の木で家を建てるプロジェクトを積極的に推進するため、補助要件等の見直しを行い需要を喚起することで、地元産材利用の拡大につなげた

○飯伊森林組合等とワーキンググループを立ち上げ、当面する課題を明らかにするとともに、その対応策について協議を重ねた。

#### <観光関係団体の支援、観光地のPR、観光施設の維持管理>

○伊那路観光連盟と木曽路観光連盟との広域連携による観光パンフレットの作成や高速道路サービスエリアでの観光キャンペーン活動の実施、食のスタンプラリーの実施、海外からのサイクリングツアーの受入れなどを実施し、観光誘客に努めた。

○南信州観光連携プロジェクト会議においては、広域連携と同様に観光キャンペーンの実施や観光パンフレットの作成等を行って地域連携による観光誘客に努めた。

○観光情報の発信力強化として飯田観光協会のホームページをリニューアルした。また、リニューアルでは、SNS(ソーシャル・ネットワーク・システム)からも情報が同時発信できるようにした。

○天龍峡温泉交流館の維持管理については、平成27年度から指定管理者制度を導入するとともに、老朽化した施設について検討を行った。宿泊機能を廃止し、日帰り温泉と食事の提供ができる施設へと建替えを行った。

#### <経済団体等の支援>

○商工会議所及び商工会議所支部が、当地域の商工業振興や産業経済の発展のために実施する地域づくり、地域活性化事業等に支援を行った。(プレミアム付商品券事業、買い物動向調査、支部独自活動等)

○商栄会や事業者の団体等が行う地域商業の活性化のための事業に支援を行った。(防犯カメラ設置、まちゼミ、空き店舗調査等)

○消費税率アップに合わせて市内中小・小規模事業者が適正な価格転嫁をするために商工会議所が実施した相談事業等に対して支援を行った。

○商工会議所が地域商業の強化を図るべく新商工会館商店街交流スペース取得等に対して支援を行った。

## 6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

○技術継承・新事業展開のためには人材育成と人材確保が必要で、特に将来を見据え高校生等に対する取り組みを強化していく。

### <工業人材育成・技術向上、受注の支援、工業施策の推進>

○関係機関と連携して技術・技能者の確保・育成の取組を進める。

○人材育成・技術力の向上では、飯田産業技術大学やものづくり高度人材育成事業を継続的に実施し、働きながら学べる環境整備に取り組み、高精度製品や研究開発から製品化までサポートできるような人材を確保する必要がある。

○地域産業の高度化・高付加価値化には研究開発から製品化、事業化が不可欠であるが、研究開発は技術動向等の把握や研究者の育成はもとより、開発試作品の評価をするための検査機器等の整備が必要であるため、地域の公的試験場としての役割を担う工業技術センター、飯田EMCセンターの試験・検査・評価機器の機能拡充に取り組む。

○地域産業の将来を担う人材の育成に向けて地元高校生をターゲットに絞り込み、学校、企業及び行政の連携を強化することにより、人材育成及び雇用確保、技術継承等を促進させる取組が必要である。同時に地域内企業による主体的な取組が効果的であるため、地元工業会を中心とした地域産業や地域内企業の魅力度を向上させる取組を支援する。

### <農業関係団体の支援、農家・農業者の支援、ブランド化の推進>

○高生産性品目への改植や省力化技術の導入などによる生産基盤の強化、農産物のマーケティング力の強化が課題である。また、農畜産物の優れた産地としてのブランドの確立が求められている。

○高齢化や担い手不足による農地の遊休化、非農家世帯の増加による集落営農機能の弱体化が進んでおり、農業振興センター及び各地区の農業振興会議を中心に、新たな時代に対応した地域農業を推進する必要がある。

### <林業関係団体の支援、森林の整備管理、地域産材利用の促進>

○森林を活用した持続可能なまちづくりを実現するため、木材の供給と需要を結びつけ、安定供給ができる体制づくりを構築することで、地域産業の育成を図る。

○東京や名古屋など大都市における飯田市産材利用に向け、関係自治体等との協議及び調整を進める。

○森林事業者として中核的な役割を担う飯伊森林組合の経営強化を図っていくため、支援の重点化を図る。

### <観光関係団体の支援、観光地のPR、観光施設の維持管理>

○三遠南信や伊那路・木曽路との連携により、圏域内を周遊する広域観光プログラムづくりに向けて具体的な検討を進めていく。

○訪日外国人観光客をターゲットにした受入れ施設の拡大と受入れ体制づくりを検討していく。

○観光情報の発信力強化として、飯田観光協会のホームページの魅力アップするため、市民参加型の方法を研究していく。

○天龍峡温泉交流館を天龍峡散策の拠点の一つと位置付け、新たな観光名所として期待できる天龍峡大橋や姑射橋周辺と組み合わせ、一体的な天龍峡の活性化を検討していく。

### <経済団体等の支援>

○社会経済の状況を踏まえながら、地域商業の活性化などのために、商工会議所及び商工会議所支部や商栄会、事業者の団体等が行う事業等に対して支援する。

○商工会議所支部や商栄会など商店街団体が地域性豊かな活動や事業を継続し、異業種連携などによる効果的な事業展開がされるよう支援する。